

駒澤大学

むらまつ てつふみ
村松 哲文

駒澤大学 学長



各務洋子学長の任期満了に伴い、2025年4月1日付で村松哲文仏教学部教授が学長に就任した。村松学長は、1967年東京都生まれ。2003年に早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。早稲田大学會津八一記念博物館を経て、2005年に駒澤大学仏教学部専任講師として着任。2009年に同学部准教授、2015年に同学部教授。2021年學術研究推進部長、禪文化歴史博物館館長を歴任。専門は仏教美術史、禅美術。数々の著書や論文を発表し、主な著書に『駒澤大学仏教学部教授が語る仏像鑑賞入門』、『体感

する仏像』など。中国を中心とした仏教文化圏の美術史を研究し、大学での授業・研究に加え、多数の市民講座の講師やテレビ番組にも出演。学長就任にあたって、「1. 誰からも愛される大学…縁起」「2. みんなで助け合う大学…慈悲」「3. お互いに高め合う大学…知恵」を3つの方針とし、就任後も授業と研究を続けながら、20年後も輝き続ける「誰からも愛される大学」を目指す。

松山東雲女子大学

みずしろ ひとし
水代 仁

松山東雲女子大学 学長



2025年6月23日付で松山東雲女子大学、松山東雲短期大学の学長に就任した。任期は2029年3月31日まで。水代仁学長は、サンフランシスコ大学 (University of San Francisco) 大学院経営学修士課程 (MBA) を修了。1993年に松山東雲短期大学に着任。その後、教務部長、現代ビジネス学科長、副学長、松山東雲学園理事などを歴任。専門は経営学。経営戦略について研究を進めているが、愛媛県の地域経済の活性化にも注力している。地方自治体と連携をし、学生有志とともに、地域課題の解決を目指した取り組みなどを展開している。

松山東雲学園は、認定こども園、中学・高等学校、短期大学、大学を有する総合学園である。松山東雲短期大学は1964年、松山東雲女子大学は1992年に設置され、現在では四国唯一の女子大学となっている。社会の急激な変化、急速な少子化に対応するために、小規模大学だからこそできることを深化させ、持続可能な地域社会の実現のために、地域から信頼され、期待される大学として進化し続けることを目指している。

立正大学

北村 行伸 きたむら ゆきのぶ

立正大学 学長



寺尾英智前学長の任期満了に伴い、2025年4月1日付で北村行伸学長が就任した。任期は3年間。

新学長は1981年慶應義塾大学経済学部卒業、1982年米国ペンシルバニア大学大学院修士課程修了(M.A.)、1988年英国オックスフォード大学大学院博士課程修了(D.Phil.)。1988年経済開発協力機構(OECD)エコノミスト、1991年日本銀行金融研究所研究員、1996年慶應義塾大学特任助教授、1999年一橋大学経済研究所助教授を経て、2002年同経済研究所教授、2020年立正大学経済学部教授、

2021年立正大学データサイエンス学部教授を歴任。その間、2014-2020年日本学術会議会員、2019-2021年総務省統計委員会委員長などの要職についている。専門分野は経済学・データサイエンス。著書に『パネルデータ分析』(岩波書店、2005)他多数ある。

立正大学は創立153年を迎え、9学部7研究科を擁し、学生数1万人を超える総合大学である。建学の精神である「真実、正義、和平」を、複雑化した現代社会の中で、学生が追求していくために、学部の再編やカリキュラムの改善を計画している。

創価大学

鈴木 美華 すずき みか

創価大学 学長



2025年3月31日付で鈴木美華教授が学長に就任した。1971年の開学以来、初の女性学長である。任期は3年間。

鈴木学長は創価大学法学部を卒業後、司法試験に合格し、最高裁判所司法研修所を修了。日本において弁護士資格を取得した。その後、米国インディアナ大学(ブルミントン)法科大学院で法学修士課程を修了し、ニューヨーク州の司法試験にも合格。会社法および企業法務を専門とし、日本およびニューヨーク州の弁護士資格を有する弁護士として国際的に活躍した。

2010年には創価大学法

科大学院教授として着任し、法曹人材の養成に尽力してきた。さらに、2022年度からは法学部長、2024年度からは副学長(ダイバーシティ担当)を歴任し、多様な価値観を尊重するインクルーシブなキャンパスづくりを推進してきた。

学長として、学生一人ひとりが個性と能力を最大限に発揮できる環境の整備に努めるとともに、世界70カ国・地域、272大学との学術交流協定を基盤に、さらなる国際化を推進し、「価値創造を実践する世界市民の育成」を目指す。

常磐大学

しもむら ゆたか

下村 裕

常磐大学 学長



富田敬子前学長の任期満了に伴い、2025年4月1日付けで下村裕学長が就任した。

下村新学長は1961年京都市生まれ。1984年に東京大学理学部物理学を卒業後、1989年に東京大学大学院理学系研究科物理学専門博士課程を修了。理学博士。東京大学理学部助手を経て、1991年に慶應義塾大学法学部専任講師となり、2000年に同教授。2006年から2012年まで慶應義塾志木高等学校校長を兼任した。専門は力学、流体物理学の研究で、英国ケンブリッジ大学に研究留学中の2002年、「回転ゆで卵が立ち上がる」物理

を解明した共同研究成果を科学誌『ネイチャー』に発表した。さらに「高速で回転する卵は立ち上がる途中でひとりでにジャンプする」ことを予測し、実証することにも成功した。著書に『ケンブリッジの卵』（慶應義塾大学出版会）、『卵が飛ぶまで考える』（日本経済新聞出版社）などがある。常磐大学は、建学の精神に掲げる「実学」を通して「社会で生きるための力」を培う教育を展開している。国際感覚を育む教育も推進し、変化し続ける社会の中で、地域や世界に貢献できる実践的な力を備えた人を育てる「学びの場」であり続ける。

東京歯科大学

かたくら あきら

片倉 朗

東京歯科大学 学長



一戸達也前学長の任期満了に伴い、2025年6月1日付けで片倉朗教授が第13代東京歯科大学学長に就任した。

任期は3年間。片倉学長は1960年東京都生まれ。1985年東京歯科大学卒業。1991年東京歯科大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）。2015年東京歯科大学口腔病態外科学講座主任教授、2019年同大学水道橋病院病院長、2022年同大学副学長・同大学千葉歯科医療センター長を歴任。専門分野は、口腔外科学。日本口腔外科学会理事、日本口腔科学会理事。口腔癌の早期診断ならびに機能を温存した治療法の研

究と診療に携わる一方で、地域包括ケアシステムの中での歯科医療のあり方の提言を行ってきた。

現代社会において歯科医学の役割は大きく広がり、う蝕や義歯などの形態回復の治療だけでなく、口腔医療を通じて全身の健康を支える視点が求められている。東京歯科大学は「歯科医師たる前に人間たれ」の建学理念のもと、人類の福祉に貢献することを目的とし、協調性、問題解決能力、変革意欲を有し、その使命を担う歯科医師の育成に力を注ぐ。

山梨英和大学

つかもと としや
塚本 俊也

山梨英和大学 学長



塚本俊也学長は2025年4月、学長に就任した。山梨英和大学は県内唯一のキリスト教系大学として136年の歴史を持つ。文理融合型リベラルアーツの単科大学で人間文化学部として心理・グローバル・ICTの3つの学問領域を設けている。複数にまたがる部分にこそ学びの真髄がある。塚本学長はタイ国立マヒドン大学大学院修士課程・健康社会科学専攻を修了。HIV/AIDSの予防教育などを研究。牧師として、国際NGO [ADRA] Japan (アドラ・ジャパン)の日本支部長として、ルワンダ、コソボ、東ティモール、アフガニスタンなどの紛

争後の緊急支援、復興等に携わった。その後、青山学院大学大学院、大阪大学大学院等で国際協力や人道支援、紛争分析、危機管理等を教えてきた。専門は危機管理。特に産学連携で国内外の留学生、外国人労働者、海外に学生を派遣している教職員向けの危機管理eラーニング・プログラムを大阪大学で開発。国内の大学においては座学で実施することの多い、受動型の危機管理研修に疑問を持ち、受講者の危機管理意識を「見える化」して、弱点を分析した上で研修を行う方法を開発した。今後は日本語教員の育成や大学のグローバル化を強化していきたい。

大学時報

University Current Review



Webサイトは
こちらから

<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



大学時報Webサイトは、第1号から最新号まで網羅したアーカイブ機能を有しています。ぜひご活用ください。

- [PICK UP!大学時報]で最新記事をスマホやタブレットでチェック
- [バックナンバー]で年度一覧から検索
- [全文検索]でキーワード検索

松井 完太郎(まついかんたろう)

国際武道大学学長。東海大学大学院博士課程前期修了。修士(政治学)。国際武道大学体育学部長・副学長を経て、'22より現職。

南 博文(みなみひろふみ)

筑紫女学園大学学長。'85米国クラーク大学大学院修了。Ph.D.(心理学)。広島大学、九州大学教育学部、同大学院人間環境学研究院を経て、'23より現職。編著『環境心理学の新しいかたち』等。

石田 雅芳(いしだまさよし)

立命館大学食マネジメント学部長・教授。同志社大学大学院在学中の'94よりフィレンツェ大学文学部に留学。スローフード協会国際本部に勤務後、帰国。'18より現職。

入江 彰昭(いりえてるあき)

東京農業大学地域環境科学部教授。東京農業大学大学院農学研究科修士課程修了。博士(造園学)。'25より同大学産学官・地域連携センター長就任。

露久保 美夏(つゆくぼみか)

東洋大学食環境科学部准教授。お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。主著『キッ

チンラボ 作って食べておうち実験!』。

有馬 暁澄(ありまあきと)

Beyond Next Ventures(株)パートナー。慶應義塾大学理工学部卒業後、丸紅に入社。'19より現職。アグリ・フードテック領域への投資、産官学連携プロジェクト等に取り組む。

山田 健太(やまだけんた)

専修大学文学部(ジャーナリズム学科)教授。'84青山学院大学卒業。専門は言論法、ジャーナリズム学。近著『転がる石のように』法とジャーナリズム 第四版』。

阿部 通明(あべみちあき)

立教大学キャリアセンター課長。立教大学社会学部卒業。鉄道会社を経て、'97立教大学入職。管財部、学生部、教務部を経て、'19より現職。

住吉 祥子(すみよしさちこ)

明治大学就職キャリア支援事務部就職キャリア支援事務長。入職後、教育学系の部署を複数経験の後、'24 4月より現職。

林 鶴代(はやしつるよ)

実践女子大学・実践女子大学短期大学部学

生総合支援センターキャリアサポート部部长。他大学職員を経て、'09学校法人実践女子学園入職。'24より現職。

久保ひとみ(くぼひとみ)

芝浦工業大学理事。就職・キャリア支援部長。

船場 ひさお(ふなば ひさお)

駿河台大学メディア情報学部教授。企業でエンジニアを経験後、九州大学大学院博士後期課程修了。岩手大学特任准教授、横浜国立大学客員教授などを経て、'23より現職。博士(芸術工学)。

穴田 光宏(あなだみつひろ)

岩手大学地域協創教育センター客員准教授。東京農業大学農業拓殖学科卒業。卒業後移住した岩手県岩泉町で、'16から学生受け入れのコーディネートを担当。'24から現職。

中島 英里香(なかしまえりか)

株式会社マイナビキャリアリサーチラボ研究員。新卒採用領域の調査・研究に従事。大学生のキャリア意向調査、低学年のキャリア意識調査などを担当。

山田 啓二（やまだ けいじ）

学校法人京都産業大学理事長、京都産業大学法学部教授。東京大学法学部卒業。前京都府知事（4期）、元全国知事会会長（4期）。¹⁸京都産業大学教授、²⁴理事長就任。

森井 英一（もりい えいち）

大阪大学大学院医学系研究科教授。⁹⁶大阪大学大学院医学研究科修了。医学博士。¹²から現職。主著『実践細胞診テキスト』（共著）など。

永見 浩輔（ながみ こうすけ）

文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学院振興専門官

加治佐 一晃（かじさ かずあき）

経済産業省イノベーション・環境局大学連携推進室室長補佐。¹⁴法政大学経済学部卒業、文部科学省入省。²⁴より現職。

下川 哲（しもかわ さとし）

早稲田大学政治経済学術院教授。カーボンニュートラル社会研究教育センター副所長。

岡田 友子（おかだ ともこ）

（公財）日本財団公益事業部シニアオフィ

サー。

山本 シャーリ（やまと しゅーり）

甲南大学全学共通教育センター特任准教授。アメリカ合衆国ハワイ州出身。²⁰神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻修士課程修了。修士（国際学）。

小松 誠和（こまつ のぶかず）

久留米大学医学部准教授。⁰¹長崎大学大学院海洋生産科学研究科修了。博士（学術）。現在の専門は免疫学と医学教育学。日本協同教育学会理事。

横田 弘文（よこた ひろふみ）

神戸女学院大学生命環境学部長・教授。⁰²九州大学大学院生物資源環境科学研究科にて博士（農学）取得。¹⁰神戸女学院大学着任、¹⁹より教授、²⁵より学部長。

村井 智史（むらい さとし）

関西大学応援団監督。⁹⁹関西大学法学部政治学科（当時）卒業。²⁴より現職。

木原 高治（きはら こうじ）

東京農業大学国際食料情報学部教授・全学応援団顧問。⁹¹愛媛大学大学院法学研究科

修了。主著『アジアのコロポレート・ガバナンス改革』（共著 白桃書房）。

河原 真也（かわはら しんや）

西南学院大学外国語学部教授。⁰²早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学、西南学院大学文学部講師、准教授を経て²⁰より現職。専門はアイルランド文学。

青戸 慎司（あおとしんじ）

中京大学スポーツ振興部副部長。ソウル、バルセロナ両五輪に陸上日本代表として、長野五輪にボブスレー日本代表として出場。日本人男子初の夏冬五輪出場を果たす。

外川 智恵（とがわちえ）

大正大学表現学部教授。同大学卒業。カリフォルニア臨床心理大学院修士課程修了。山梨放送を経てフリー。NTT技術ジャーナル巻頭インタビュー、新語・流行語大賞の総司会など。

（お断り）本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

私大連会員法人向け
期間限定オンデマンド配信

新任理事・評議員対象 オンデマンドセミナー

新たに理事や評議員に就任された方々が期待される役割を適切に果たし、学校法人の適正な運営に当たることの一助としていただくことを期待し、理事・評議員の役割等に関する事項について関係機関からの説明動画を配信しています。

1. 文部科学省からの説明
2. 日本私立学校振興・共済事業団からの説明
3. 日本私立大学連盟からの説明

<https://www.shidaiaren.or.jp/members/seminar/>



※右記URL、QRコードにアクセスする前に、私大連ウェブサイトに於いて「会員登録」を完了してください。なお、私大連会員法人の理事・評議員の方で、「会員登録」のユーザ登録ができない場合は私大連事務局までお問い合わせください。

私立大学ガバナンス・コード【第2.1版】 改訂趣旨及び実務上の留意点に関する オンライン説明会

「私立大学ガバナンス・コード【第2.1版】」の改訂主旨理解促進や、実務上の留意点の確認を目的として説明動画を配信しています。『私立大学ガバナンス・コード』の理念の浸透や今後の点検作業時にご活用いただければ幸いです。

※この動画は、上記「新任理事・評議員対象オンデマンドセミナー」の「3. 日本私立大学連盟からの説明」にも掲載されています。

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details?id=3532?id=3



いずれの動画も、会員法人関係者限定公開です。会員法人関係者各位におかれましては、私大連ウェブサイトに於いて「会員登録」が必要です。

ユーザ登録には、会員法人が発行した個人用メールアドレスが必要です。ユーザ登録は左記よりお願いいたします。

<https://www.shidaiaren.or.jp/login/>



加盟大学学長インタビュー動画 「学長ときどき私」を公開

この動画は、私大連加盟大学の学長にフォーカスし、学長としてのお仕事、研究者としての活動、プライベートの過ごし方などをお伺いし、学長の魅力を伝えることを通じて、私立大学での多様な学びや学ぶことの楽しさなど、私立大学の魅力を視聴者にお届けしています。

新たに松山大学 池上真人学長、文教大学 宮武利江学長へのインタビューを公開、今後も随時公開予定です。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLXbCoVKSQota11RjeJ5Na3BL2SaCdVshT>



会長の動き

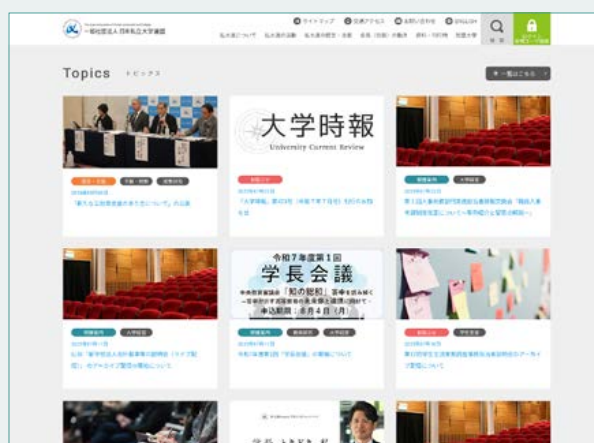
- **7月22日(火)**
第4回常務理事会、
第4回理事会に出席

開催報告

- **7月22日(火)・23日(水)**
財務・人事担当理事者会議(第1回)
- **7月29日(火)**
私立大学ガバナンス・コード【第2.1版】
改訂趣旨及び実務上の留意点に関する
説明会(オンライン開催)
- **8月5日(火)**
FD推進ワークショップ(オンライン
参加コース)
- **8月7日(木)・8日(金)**
FD推進ワークショップ(対面参加
コース)
- **8月19日(火)・20日(水)**
教学担当理事者会議
- **8月21日(木)・22日(金)**
監事会議
- **8月27日(水)・28日(木)**
学長会議(第1回)

<https://www.shidaiaren.or.jp/>

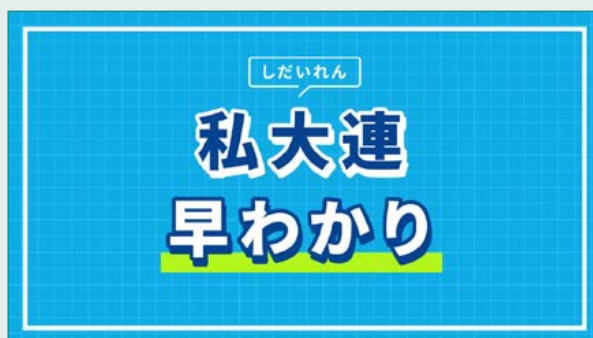
詳細は、私大連Webサイトを
ご覧ください。



私大連の概要を
動画でわかりやすく
ご紹介。

**私大連
早わかり**

こちらで私大連の各種動画
もご覧いただけます。
日本私立大学連盟公式
YouTubeチャンネル



YouTubeで
公開中!



座談会 「アカデミック・ライティング支援のいま」

特集 「専門ミュージアムという発信拠点—大学の知のかたち—」

小特集 「大学を起点とする“出会い”のデザイン」

だいがくのたから 大谷大学

大学点描 天理大学

クローズアップ・インタビュー 田中 みずきさん(銭湯ペンキ絵師)

編集後記

◆「大学生活と将来のキャリアは切り離せない連続した営みだ」という

本特集の狙いを各大学の寄稿が鮮やかに映し出してくれた。「キャリアを仕事・職業を含めた、自立した個としての自分らしい人生のあり方と捉え、就職Ⅱゴールとは考えていない」と語るように、キャリアは内定獲得のずっと先まで続く人生そのもの。その道のりは決して一直線ではない。「迷うから遠くに行ける」という言葉が示すように、大学という時間は、将来の土台を築く大事な期間だ。時に立ち止まり、深く悩み、多様な経験を通じて本質的な自分自身と向き合う。そこで得られる学びや気づきは、将来に役立つ大切な指針となるだろう。地域での実践、実際の企業課題への果敢な挑戦、そして仲間との対話。こうした主体的な「アクション」は、まだ見ぬ可能性を無限に拓き、やがて来る素晴らしい未来へと繋がると信じている。

この特集が、未来へ踏み出す学生たちの背中を押し、自分らしい未来を拓く一助となれば幸いである。〈広報・情報委員会大学時報分科会委員・立教大学企画部渉外課課長補佐

大野百合子

◆子どもの将来を期待して語られた

「末は博士か大臣か」というフレーズを最近あまり耳にしなくなった。価値観の多様化等の理由もあるが、博士課程進学が不安の残る選択肢と見なされがちという面もあるだろう。

しかし、博士課程を取り巻く環境は大きな転換期を迎えている。博士号が拓く道はアカデミアの世界だけにとどまらず、産業界を含む多様なキャリアパスを構築しており、競争市場や社会課題の最前線で、高度な知を備えた博士人材が活躍できる場を広げる取り組みが進んでいる。

本小特集では、産官学連携による支援策、ロールモデル事例の活用、大学院教育改革の最新動向などを紹介した。社会に溶け込み、文理融合させた学際的な視野と柔軟で高度な思考力を育成していく新たな人材育成プログラムとの視点は示唆に富む内容だ。今後の高等教育政策においても、博士人材の社会的活躍をいかに実装するかが重要な論点のひとつとなると考えられる。引き続き、現場での実践的な取り組みと課題意識の共有

を期待してまいりたい。〈広報・情報委員会大学時報分科会委員・明治大学経営企画部広報課長 野見山智道〉

◆生きていくうえで欠かすことのできない食—座談会では、食を通して広がる世界を知る時間となった。そして、誌面ではご紹介できなかったが、インタビューゲストの青戸さんからは、食を通していかにご自身の体と向き合っているかのお話を伺うことができた。

座談会で印象に残ったのは、石田先生の発言にある。いにしえの食とアカデミアの関係である。このお話を聞きながら、青戸さんが大学院に進学し、ご自身の経験を科学的に検証し、理論化されたお話を思い出していた。

料理はレシピ通りに作る場合もあれば、塩コショウ少々、目分量などで感覚で作る場合もある。人間の感覚や知恵とアカデミアの融合は、歴史的文化的の継承と共に、培われた知の感覚を形にするものなのだと感じる。今後も大学が、このような場であり続けることを期待したい。〈日本私立大学連盟事務局 加賀崎奈美〉

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (118大学 令和7年9月20日現在)

愛知大学
亜細亜大学
青山学院大学
跡見学園女子大学
梅花女子大学
文教大学
筑紫女学院大学
中京大学
中央大学
大東文化大学
獨協大学}
獨協医科大学}
姫路獨協大学}
同志社大学}
同志社女子大学}
フェリス女学院大学
福岡大学
福岡女学院大学}
福岡女学院看護大学}
学習院大学}
学習院女子大学}
白鷗大学
阪南大学
広島女学院大学
広島修道大学
法政大学
実践女子大学
上智大学
城西大学}
城西国際大学}
順天堂大学
金沢星稜大学

関西大学
関西学院大学
関東学園大学
関東学院大学
慶應義塾大学
敬和学園大学
神戸女学院大学
皇學館大学
國學院大學
国際武道大学
国際基督教大学
駒澤大学
甲南大学
久留米大学
共立女子大学
京都産業大学
京都精華大学
京都橘大学
九州産業大学
松山大学
松山東雲女子大学
明治大学
明治学院大学
宮城学院女子大学
桃山学院大学
武蔵大学
武蔵野大学
武蔵野美術大学
名古屋学院大学
南山大学
日本大学
日本女子大学

ノートルダム清心女子大学
大阪学院大学
大阪医科薬科大学
大阪女学院大学
大谷大学
追手門学院大学
立教大学
立正大学
立命館大学}
立命館アジア太平洋大学}
龍谷大学
流通科学大学
流通経済大学
西武文理大学
聖学院大学
成城大学
聖カタリナ大学
成蹊大学
西南学院大学
聖路加国際大学
聖心女子大学
専修大学}
石巻専修大学}
芝浦工業大学
白百合女子大学}
仙台白百合女子大学}
昭和女子大学
創価大学
園田学園大学
大正大学
拓殖大学
天理大学

東邦大学
東北学院大学
東北公益文科大学
東海大学
常磐大学
東京女子大学
東京女子医科大学
東京経済大学
東京国際大学
東京農業大学}
東京情報大学}
東京歯科大学
東洋大学
東洋英和女学院大学
東洋学園大学
豊田工業大学
津田塾大学
和光大学
早稲田大学
山梨英和大学
四日市大学}
四日市看護医療大学}

大学時報

University Current Review
2025/9月号

第74巻424号(通巻437号)
令和7年9月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 高橋智幸(関西大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館
電話 03-3262-8672 FAX 03-3262-4363
<https://www.shidairen.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル 3階
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-1
住友不動産虎ノ門タワー 20階

松田美佐(中央大学文学部教授)
須藤智徳(法政大学多摩事務課課長)
藤野圭(上智大学ダイバーシティ・サステナビリティ推進室室長)
玉村まゆか(関西大学総合企画室広報課長)
中谷良規(関西学院広報部企画広報課課長)
河越英代(慶應義塾広報室長)
野見山智道(明治大学経営企画部広報課長)
大野百合子(立教学院総長室渉外課課長補佐)
勝屋藍太(立命館大学総合企画部広報課長)
山田健太(専修大学文学部教授)
高橋慈海(大正大学理事長室室長)
大谷奈緒子(東洋大学社会学部教授)
中條賢二(津田塾大学経営企画課課長)
小泉邦人(早稲田大学エクステンションセンター事務長兼
コンティニューイング・エデュケーション推進室課長)
春名貴明(日本私立大学連盟事務局)
加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)
長尾早姫(日本私立大学連盟事務局)
吉田匡孝(日本私立大学連盟事務局)

